

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 275

事務事業名	赤ちゃん訪問事業(妊産婦・新生児等訪問指導事業)
-------	--------------------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	こども未来部		
課名	こども家庭課		
課長名	山下 浩典	内線	170
担当者名	森 ふみ	内線	170

基本目標		人を育むまち
政策	010102	子育てしやすいまちづくり
施策		親と子の健康増進
関連施策		

会計	1	一般会計
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	1	保健衛生総務費
事業コード	060100	赤ちゃん訪問事業

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画	第2次健康おおむら21計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	妊産婦・新生児・乳児		
誰(何)に対して事業を行うか			
意図	産後の母親の体調管理を含め、新生児・乳幼児の順調な発育を支援するとともに、乳児家庭全般の全戸訪問を実施することにより、育児の状況等実態把握を行い、継続的な支援が必要な家庭の早期発見を図る。		
対象をどのような状態にしたいか			
事業概要	保健師・助産師が第1子、母子保健推進員が第2子以降の乳児家庭を生後4か月までに訪問して全誕生児の家庭に面接を行い、適切な保健指導や子育ての情報を提供する。生後5か月以降の未訪問家庭に対しても、保健師が継続的に連絡を取り対応していく。また、訪問の結果、支援を必要とする家庭には、子どもの成長等に応じて継続的な訪問指導や各種子育て支援サービスを提供する。		
意図を達成するために実施することは何か			
事業期間	平成 19 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	母子保健法 第11条・第17条、第2次健康おおむら21計画、子ども・子育て支援交付金要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考	
活動指標	① 赤ちゃん訪問実件数(保健師・助産師)	計画値	600	609	550	550	訪問対象児:第1子健常児・第2子要フォロー児	
		実績値	645	586	568			
	達成度	%	107.5%	96.2%	103.3%			
	② 赤ちゃん訪問実件数(母子保健推進員)	計画値	350	362	362	362		訪問対象児:第2子健常児
実績値		351	282	330				
達成度	%	100.3%	77.9%	91.2%				
成果指標	① 保健師・助産師訪問率	計画値	100	100	100	100	4か月までに訪問できた件数	
		実績値	96	96	96			
	訪問件数/保健師・助産師訪問対象数	達成度	%	96.0%	96.1%	96.3%		
	② 母子保健推進員訪問率	計画値	100	100	100	100		4か月までに訪問できた件数
実績値		92	88	95				
訪問で面接できた件数/母子保健推進員訪問対象数	達成度	%	91.9%	87.6%	94.6%			

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	1,551	1,415	1,653	1,968	1,864	1,864	1,864	0
国庫支出金	775	509	538	476	474	474	474	
県支出金		509	538	476	474	474	474	
地方債								
その他								
一般財源	776	397	577	1,016	916	916	916	0
② 人件費(千円)	7,014	6,350	5,105	5,714	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.84	0.80	0.70	0.75				
時間外勤務(時間)	169.5	152	84	130				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	8,565	7,765	6,758	7,682				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をされましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度に訪問スタッフが委託助産師から臨時保健師へ変更したこともあり、訪問指導内容等の十分な統一が図れていなかったため、定期的に研修等を行い、訪問スタッフのスキルアップを図ろうとしていたが、十分な研修開催には至らなかった。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	今後も訪問指導内容等の統一を図っていく必要がある。

妥当性	<b>【必要性】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	出産という母子共に心身の変化が大きい時期を中心に訪問し、個々に応じた保健指導や情報提供などを行うため、児の健全な成長を助け、育児不安の軽減を図ることができる。						
	<b>【市の関与】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
全誕生児家庭を訪問することで、支援が必要な家庭の早期発見・虐待等の予防につながり、他の母子保健事業・子育て支援事業とも関連させて支援を継続できる。							
有効性	<b>【事業成果】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	家庭訪問により家庭内状況の把握も行きやすくなるため、保健指導において効果があり有効性は高い。						
	<b>【施策貢献度】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
訪問時に、母子保健や子育て支援等の情報を提供することで、その有効利用にもつながっている。							
効率性	<b>【コスト】</b>	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	訪問計画を策定し、臨時保健師や母子保健推進員の効率的な訪問活動に努めている。						
	<b>【負担割合】</b>	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

<input checked="" type="checkbox"/> 今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	
--	-------------------------------	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	定期的な研修会や伝達等を行っていく。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	訪問スタッフのスキルアップを図ることで、産婦の健康の保持・増進と乳児の順調な発育の支援につながる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。